【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和4年3月2日(2022.3.2)

【公開番号】特開2021-1178(P2021-1178A)
【公開日】令和3年1月7日(2021.1.7)
【年通号数】公開・登録公報2021-001
【出願番号】特願2020-143608(P2020-143608)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ 35/50(2015.01)
Ａ６１Ｐ 17/02(2006.01)
Ａ６１Ｐ 3/10(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ 35/50
Ａ６１Ｐ 17/02
Ａ６１Ｐ 3/10

【誤訳訂正書】
【提出日】令和4年2月21日(2022.2.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００８７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００８７】
別の実施形態では、本明細書に記載の方法及び組成物に有用な単離胎盤細胞は、抗体結合で決定されるようなＣＤ２００＋及びＣＤ１０＋であり、抗体結合及びＲＴ－ＰＣＲの両方で決定されるようなＣＤ１７－である単離胎盤細胞である。別の実施形態では、本明細書に記載の方法及び組成物に有用な単離胎盤細胞は、ＣＤ１０＋、ＣＤ２９－、ＣＤ５４＋、ＣＤ２００＋、ＨＬＡ－Ｇ－、ＭＨＣクラスＩ＋、及びβ－２ミクログロブリン＋である単離胎盤細胞、例えば、胎盤幹細胞または胎盤多分化能細胞である。別の実施形態では、本明細書に記載の方法及び組成物に有用な単離胎盤細胞は、少なくとも１つの細胞マーカーの発現が間葉系幹細胞（例えば、骨髄由来間葉系幹細胞）場合よりも少なくとも２倍高い、胎盤細胞である。別の具体的な実施形態では、該単離胎盤細胞は、由来が非母体である。別の具体的な実施形態では、該細胞集団中の該細胞の少なくとも約４０％、４５％、５０％、５５％、６０％、６５％、７０％、７５％、９０％、８５％、９０％、９５％、９８％、または９９％は、由来が非母体である。